

2017年1月5日

イビデン株式会社 竹中社長の年頭挨拶

2017年1月5日午前8時00分より、当社の新年互礼会が実施され、竹中社長が年頭の挨拶を行いました。今年も、昨年と同じくテレビ会議システムを利用し、国内事業場および海外拠点を同時に中継して、実施しました。要旨は以下の通りです。

あけましておめでとうございます。

昨年、世界では、宗教や民族に絡んだテロや紛争が相変わらず続き、国境紛争も激しさを増しました。また、英国のEU離脱や、米国大統領選のトランプ候補の勝利など、世界の大きな流れとして、保護主義への回帰現象が始まったように感じました。グローバル化のひずみでナショナリズムが台頭する中、我々のグローバルな事業活動においては、地政学的リスクに加え保護主義へのリスク管理も重要になってまいりました。

当社においては、昨年11月1日に事業構造改革費用550億円を計上することを对外発表しました。主に電子部門の受注の落ち込みにともない、一旦資産価値を現状の受注に見合う分まで減損したことによります。しかし現在は、海外の電子生産拠点の方々の努力により、品質やプロセスの改善が順調に進んでいますので、今年は、昨年減損した設備もフル活用して、V字回復させる予定です。

さて、今年は中期経営計画、“Challenge IBI-TECHNO 105 Plan”の最終年度です。この中期経営計画における大目標は、競争力強化のための、現地・現物・自掛を基本とした、「人財育成」です。同業者と同じ設備を導入するだけでなく、社員自らが現地・現物で自分たちの手で、プロセスや設備に創意工夫を加え、ダントツの品質やコスト競争力を作り上げることです。4年前からの活動の手応えが、最近ようやく感じられるようになってきました。先日、海外工場を訪問した際にも、活発な5S活動やクロスセクション・チームワーク活動※、また管理部門の自工程完結活動への挑戦に感心しました。

今年は、この中期経営計画の仕上げとして、もう一段高みの活動となる、課題解決において「真の原因」に対して対策を打つことを徹底したいと思います。先日、トヨタの幹部の方から直々に、「真の原因」にたどり着くための「なぜなぜ手法」について伺いました。WHYを5回繰り返し、真の原因にたどり着く。その真の原因に対して手を打つことで、再発や後戻りがなくなります。当社セラミック事業でも、「真の原因」への対策により、数年来の課題解決に対し、年末の3ヶ月で素晴らしい成果を出してくれました。今年は、全社で徹底したいと思いますのでよろしくお願いします。

最後に、昨年お願いした2つの働き方改革「部下への気配り」と「仕事は定時で終える」も、常に意識して、全職場を「いきいき職場」にしていってほしいと思います。

皆さんの成長とともに、今年の業績をV字回復させていきます。最後に、今年1年の皆さんの健康と安全を祈念して、年頭のご挨拶とさせていただきます。

※クロスセクション・チームワーク活動：組織や部門の枠を超えて、1つの目標に向かって全員参加で仕事を進めるやり方のこと

以上